

# 超小型車で児童見守り



筑波学院大  
学生8人  
下校時に巡回

つくば市吾妻の筑波学院大学の学生たちが8日、一人乗り超小型電気自動車を使った児童の見守り活動を開始した。学生たちに社会経験を積ませる授業の一環。つくば市が所有する超小型電気自動車を2台借り、今後1カ月間、どんな成果が得られるかについて検証する。

学生8人が交代で週1回、児童の下校時間に合わせ、車を走らせる。活動地域は同市西部の上郷小、吉沼小、今鹿島小、沼崎小の各

## つくば「珍しさ」の抑止力期待

学区。車体には「安全パトロール中」のステッカーも貼った。学生たちは2013年から、立ち乗り充電式二輪車「セグウェイ」を使った見守り活動を大学周辺で月2回実施しており、今回はその発展形。珍しい乗り物を運転することで周囲の関心を集め、結果的に犯罪の抑止力につながることを期待している。

リーダーの2年生、会田志穂実さんは「吉沼小は母校で、周辺は細い道が多い。小回りが利くこの車なら運転に最適」。上郷小出身の2年生、岡田祐里香さんは「普段乗っている軽自動車とは違っているので、安全運転を心掛けたい」と語った。

（今橋憲正）